

英語**【解答】**

I	問 1	問 2	問 3	問 4	問 5
	b	c	d	b	c
II	問 1	問 2	問 3	問 4	問 5
	a	c	d	b	a
III	問 1	問 2	問 3	問 4	問 5
	d	b	c	b	a
IV	問 1	問 2	問 3	問 4	問 5
	b	a	c	b	b
V	問 1	問 2	問 3	問 4	問 5
	c	b	a	d	d
	問 6	問 7	問 8	問 9	問 10
	b	a	c	d	b
VI	問 1	問 2	問 3	問 4	問 5
	b	c	a	d	b

【学習アドバイス】

2019年度の入試問題も2018年度同様、Ⅰ. 会話問題、Ⅱ. 適語補充問題、Ⅲ・Ⅳ. 長文読解問題、Ⅴ. 文法・語法問題、Ⅵ. 整序英作文の大問6題構成であった。全問マークシート式の選択問題で、連続する100分で2科目を選択し解答することとなる。各科目にかかるバランスにもよるが、解答時間は50分程度である。試験時間に対し、無理なく解答できる問題数であると言えよう。

全体的な難易度は高校英語標準レベルであるため、高校で学習する語彙・熟語、文法・語法などの基本事項を不足なく固めることが求められている。それでは各大問の特徴を踏まえて対策を考えていこう。

Ⅰ. 会話問題は、会話特有の口語表現ではなく、文脈理解を問う形式である。日常生活の一部を切り取ったようなオーセンティックな会話であるため、予想した返答と違う選択肢が用意されていることがあるかもしれない。しかし、用いられている語彙は平易であるため、空所の前後をよく読み文脈を把握した上で選択肢を精査すれば、問題ないだろう。他の大問の対策を行う中で培う力で十分対応可能である。

Ⅱ. 適語補充問題は、2～3行の短文内の空所に適切な語彙を選択する形式である。提示されている選択肢の品詞は統一されているため、意味の観点から文脈に適するものを選択することとなる。選択肢の中には難しい語彙も含まれているが、正解となる語彙は高校1・2年生レベルであることを考慮すると、基本的な語彙力を試す問題であると言える。対策としては、標準的な入試対策用の単語集を反復して覚えておくことが求められるだろう。

Ⅲ・Ⅳ. 長文読解問題は、標準的な語彙を用いたやや短めの英文が題材として選ばれており、問題は適語空所補充問題、文挿入問題、下線部同意表現選択問題、内容一致問題が主に出题されている。難度が高めの語彙には語注が付されているが、やや難し目の語彙・熟語が適語空所補充問題や同意表現選択問題で問われる場合もある。内容一致問題に関しては、長文の細かな部分ではなく、ある段落を正しく理解できているかを問うような問題が多い。前述の問題形式の中でも、長文読解内で最も特徴的だと言えるのは、文挿入問題であろう。提示された英文を入れるのに最も適切な場所を、長文内の4か所から選択させる形式であり、Ⅲ・Ⅳの両大問で出题されている。長文問題の最も有効な対策は、定期的に長文問題に取り組むことである。その際、文挿入問題も念頭に置き、指示語やディスコースマーカーに注意して英文どうしのつながりを意識するとより効果的であろう。

Ⅴ. 文法・語法問題では、付加疑問文・仮定法・接続詞などの基本的な文法・語法力や *would rather A than B* などの関連表現の知識だけではなく、主語・動詞の一致のような構造を捉える力も問われる。様々な分野から出题されているが、各分野の基礎力を問う問題が中心である。受験対策用の文法・語法中心の問題集を繰り返し演習し、よく問われる表現を覚えるなどして、基本事項を確実に身につけておくことが必須であろう。

Ⅵ. 整序英作文問題は、和文が与えられている形式であるため、どのような表現や構文、文法知識が求められているのかを判断しなければならない。*cost* の語法や *not A but B* などの定番の表現が多く出題される傾向にあるため、整序英作文によく出題される表現・構文は、問題集などを用いて覚えるまで繰り返し練習することで対応できるだろう。

本学の入試問題は、確固たる基礎力がついているかを問うものである。計画的に学習を進めることができれば、必ずや望む結果を得られるであろう。まずは過去問題を解き、自分の弱点を探るところから始めてみよう。